

博士課程教育リーディングプログラムフォローアップ報告書(平成24年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	超成熟社会発展のサイエンス	申請大学名	慶應義塾大学
申請大学長名	清家 篤		
プログラム責任者	長谷山 彰		

1. 進捗状況概要

- ・ 所要の体制整備等が確実に行われ、プログラムは順調に立ち上がっている。
- ・ 本事業開始時期が 10 月から 12 月に変更されたため、本プログラム対象学生の RA への採用は平成 24 年春学期からの開始となったが、全体としては着実に計画が実施されている。
- ・ 教育拠点となる日吉西別館において毎週土曜日に行われるコアカリキュラムを軸として、多様な分野の研究者や企業人等と一堂に会し、高い「水飲み場効果」の得られる取組が効果的に実施されており、超成熟社会の持続的発展を牽引するグローバル人材の養成が期待される。
- ・ 本プログラムのカリキュラムにおいて重要な役割を成す「グループプロジェクト演習」は着実に実施されている。特に、メンターとの密度の高いコミュニケーションが、元々意欲のある学生の問題意識を一層高めることに効果を上げている。
- ・ 本プログラムの特色である M・M・D システムを全学で運用可能とするため、リーディング大学院プログラム委員会の主導により学則等の改正作業を進めている。
- ・ 本プログラムの実施の両輪を成すプログラム委員会とボード会議が順調に構築・運営されており、学外との連携も着実に進められている。
- ・ 特任教員、非常勤教員、メンター等の任用も順調に行われ、指導・支援体制が確実に構築されている。
- ・ 平成 24 年度春学期の本プログラム対象学生である RA は採用数こそ予定数を下回ったが、いずれも意欲に溢れた優秀な学生であり今後が大いに期待できる。広報活動等に一層力を入れて、秋学期以降も優秀な学生の確保に努めることが必要である。

2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）

- ・ 本プログラムにおけるメンターの役割は極めて重要であるため、引き続き多様な分野からの人材確保に努めることが必要である。
- ・ 5 キャンパスを繋ぐ遠隔教育・ミーティングシステムは、オールラウンド型の教育プログラムを実施する上での重要な設備として期待できる。このシステムを使って実施されたプログレス・ミーティングは学生が分野による方法論等の違いを直接肌で感じ取れる貴重な機会であるので、文理融合を進める観点からも積極的な活用が望まれる。
- ・ トップ・リーダーの資質として必要な、「描いたシナリオを断固として実行できる」力を培うための教育上の工夫や具体的なプログラムについて引き続き検討が必要である。
- ・ プログラムの最大の特徴である副専攻修士課程について、中長期の海外インターンシップを含め、無理なく履修でき、実効が上がるよう、制度面等における工夫などが必要である。